

## 道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 22 年度 第 3 号 2011 年 1 月 26 日

北海道立総合研究機構 栽培水産試験場 調査研究部  
TEL : 0143-22-2327 FAX : 0143-22-7605

### 道南太平洋スケトウダラ資源調査（計量魚探調査）結果

函館水試調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：平成 23 年 1 月 13～19 日
- ・ 調査海域：道南太平洋の水深 50～500mの海域

- ・ 今回は時化のため沖合域および白老以東海域の魚探調査はできませんでした。また、トロールによる漁獲物調査もできませんでした。
- ・ 魚群反応は、胆振沖（地球岬～登別沖）が中心。とくに地球岬沖合にはかなり濃密な反応がありました。
- ・ 魚探反応からみた魚群の分布深度は、地球岬沖では、水深 50～70m、登別沖では、水深 100～150mが中心となっていた。

1. スケトウダラとみられる魚群は、主に胆振海域の水深 150m以浅の沿岸域で観察されました。とくに、胆振海域の 183、185、186 海区に強い反応がみられました（図 1， 2）。
2. 魚群の反応は、胆振海域では水深 50～500mと広範囲に観察されました（図 3）。とくに室蘭沖（G線）では水深 50～70mに、登別沖では 100～150m強い反応がみられました（図 2）。  
なお、渡島海域および噴火湾内の魚群反応は弱く、沖合の水深 250m付近にやや反応がみられた程度でした（図 2， 3）。
3. 調査海域が限られてしまったため、海域平均の反応量については過去の調査との比較ができませんでしたが、登別沖のライン（H線）の平均反応量は昨年同期の値を下回っていました（図 2）。
4. 一部の調査点において水温観測を実施しました。水温はスケトウダラが分布する 50～150m付近は 4～5℃台となっていました。

なお、今年度のスケトウダラニュースは本号で終了です。今回の調査は荒天のため、予定していた調査海域の一部分しか実施できませんでしたが、低気圧の発達しやすい時期の調査でもあるため、この様な年もあることをご了承願います。

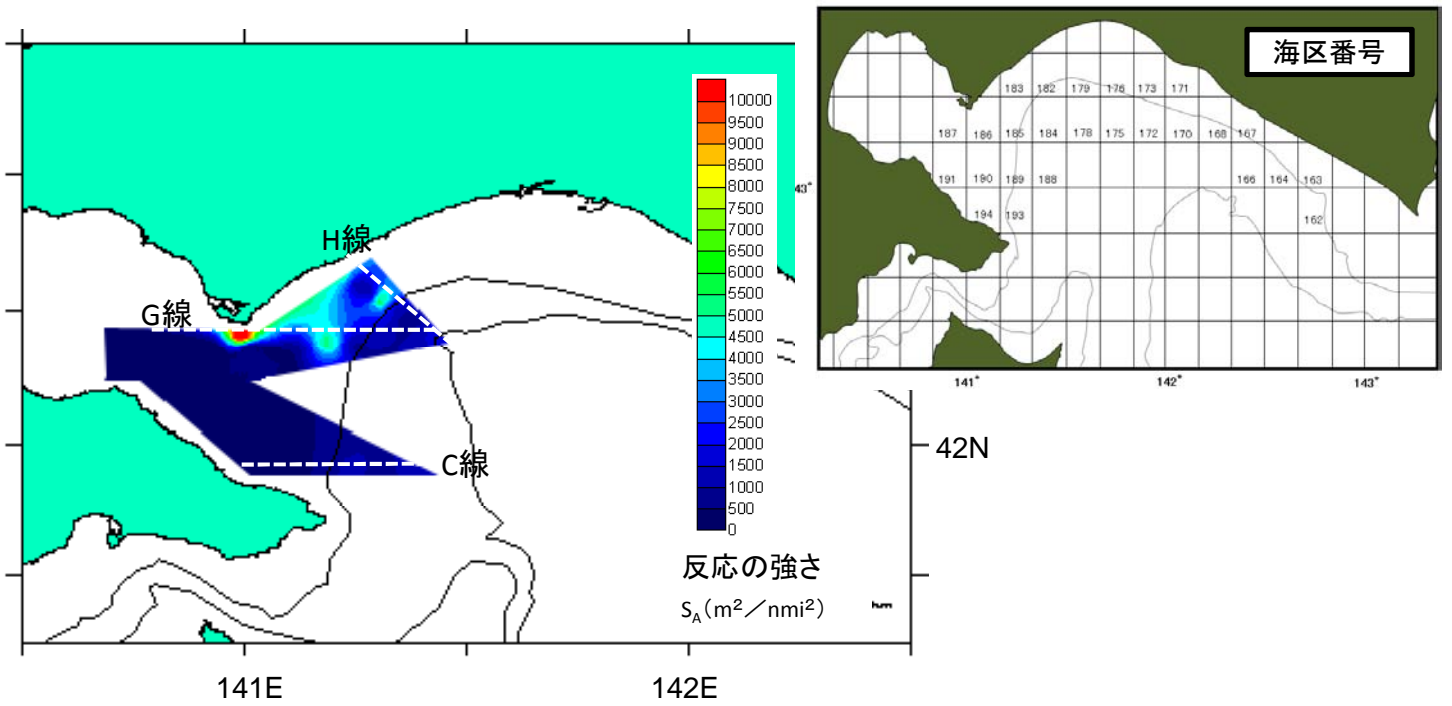


図1 調査海域における魚群の分布

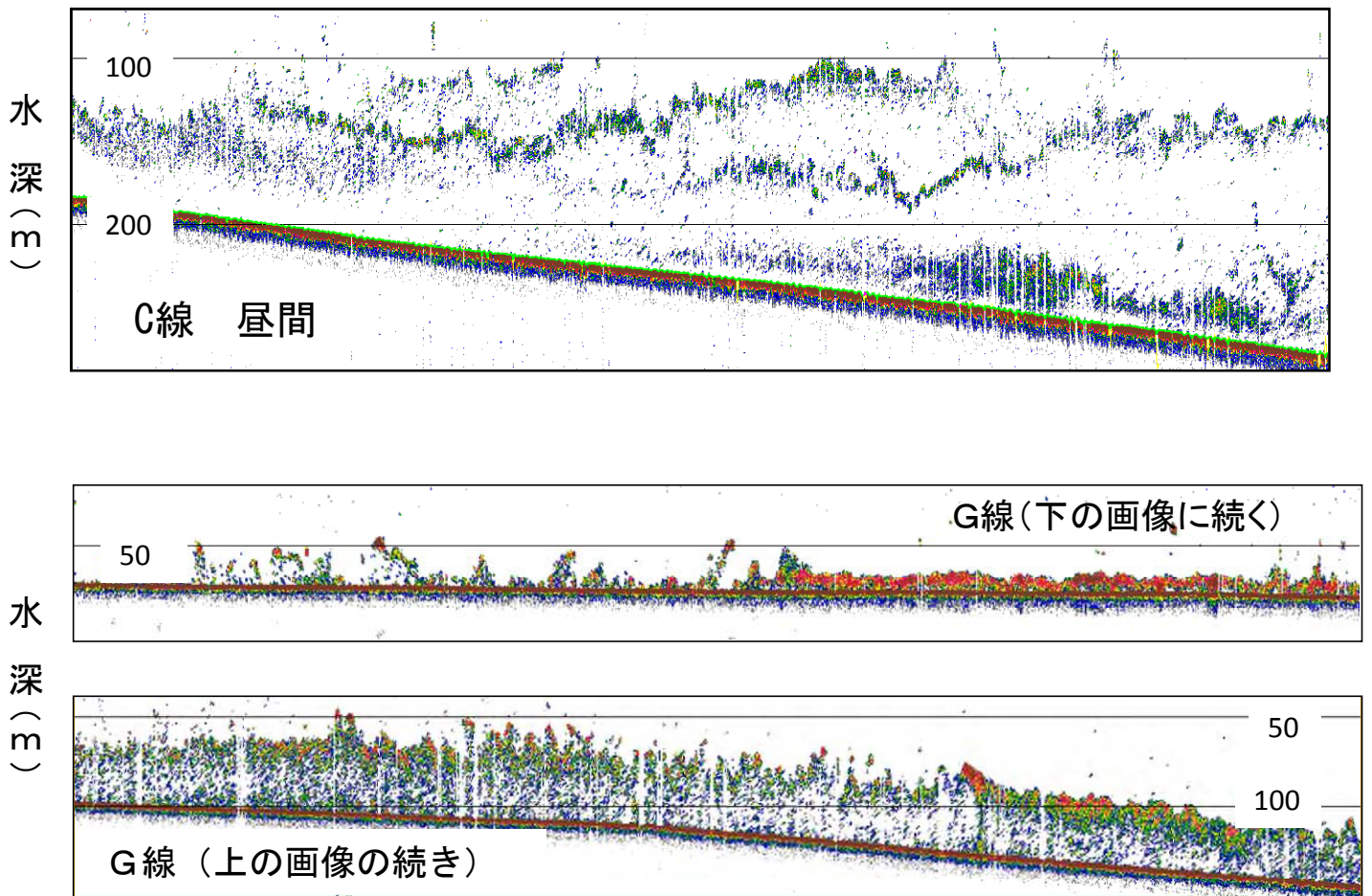


図2 魚群の分布状況(計量魚探画像)

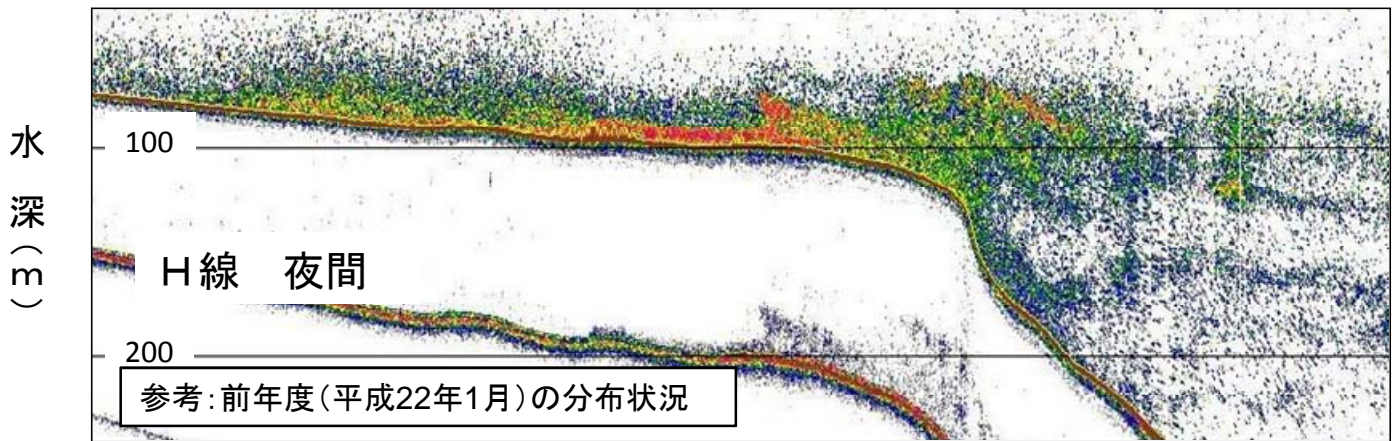
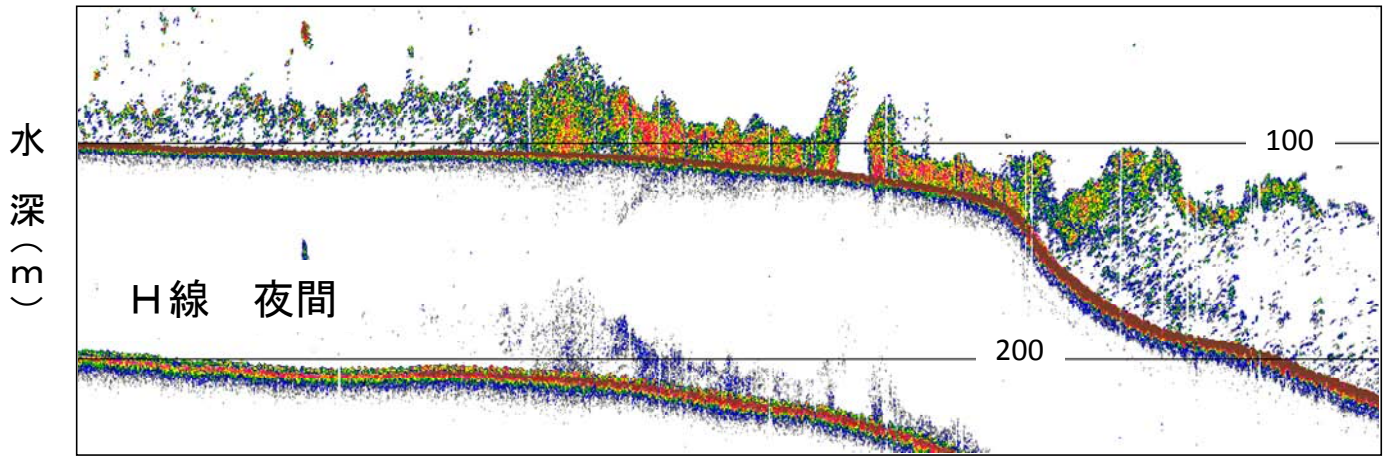


図2 魚群の分布状況(計量魚探画像)つづき

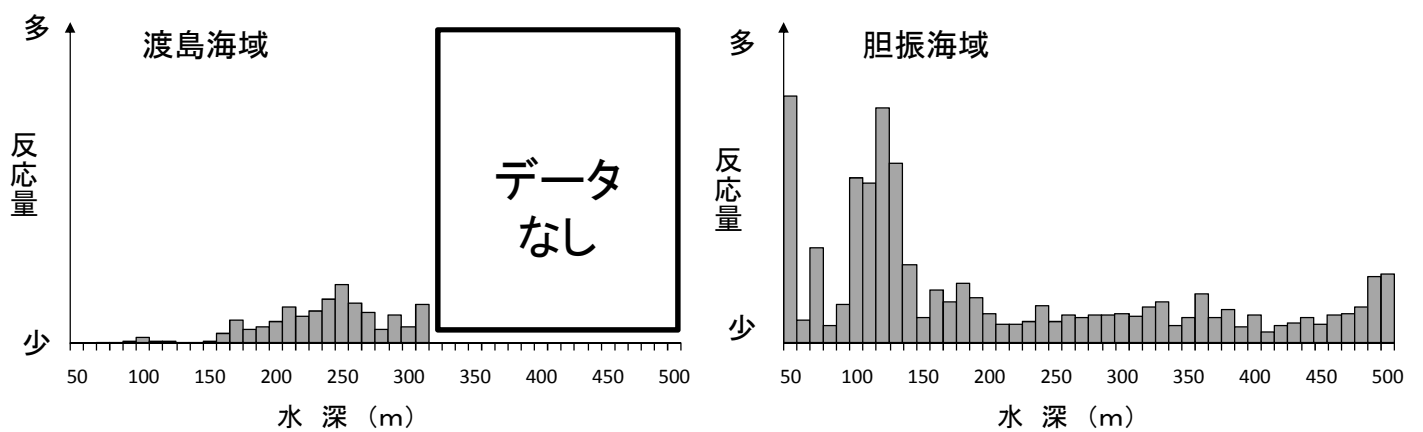


図3 水深別の魚探反応量